

1 月 12 日(木曜日) シイタケランドの整備とシイタケの原木準備

【参加者：池本幸、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中

計 10 名】



今年最初のモリメイト活動。朝は冷え込んだが日中はぽかぽか陽気となり心地よく作業をすることができた。「ひたき鳴き作業も軽し冬うらら」といった感じである。

初めに、森づくりサポートセンターの坂上さんが送ってきた神戸小学校の菌打ち体験についての企画書を全員で確認した。

その後、2 班に分かれ作業を行った。1 班は、シイタケランドの整備に取りかかり、ササ刈りや寿命のきたほだ木・腐った丸太棒・枯れ枝などの片付けを行った。2 班は、神戸小学校の菌打ち体験に使う原木を 50 cm にカットして 24 本、原木に付ける木札 24 個を準備した。午後からは全員でシイタケランドの整備を行った。落ち葉に守られ、ちらちらと木漏れ日が差し込む「シイタケランド」は年々手入れが進み、シイタケ発生にはいい環境になってきている。



1 月 19 日(木曜日) 少なくはなっているがまだ残る枯れマツ

【参加者：池本、越智宏、越智美、梶川、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中

計 9 名】

神戸小学校の「菌打ち体験」に持っていくもの（菌打ち台、ほだ木 24 本、ビットをセットしたドリル、木槌、名札）を揃え、軽トラにすぐ積めるように準備した。

その後、枯れマツの除伐を行った。カブトムシの森からサブコテージに向かう散策路周辺で 5 本、7 番東屋周辺で 6 本、8 番東屋周辺で 5 本、計 16 本を除伐した。木立を覆う蔓も切っていた。



枯れた桜の幹を突き抜けて成長しているササを発見

1月26日(木曜日)

神戸小学校へ「シイタケの菌打ち体験」のサポートに

【参加者;池本、越智宏、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中

計 8名】



この3月で閉校になる神戸小学校。思い出に残る体験をさせてあげたいという先生たちの思いを受けて特別授業「シイタケの菌打ち体験」をサポートすることになった。

1年生と2年生合わせて21名、二人の欠席があつて19名の子どもたちを前にしてシイタケ栽培家の廣島さんの話から始まった。自然の中をとび回り、虫や植物と遊んでいた子どもころの

話に始まり、シイタケの育つ環境や、育て方などの話をされた。モリメイトもその話の手伝いをしながら聞かせてもらった。シイタケ栽培の面白さを存分に話された後、「生まれ変わってもこの仕事に就きたい。」とシイタケ愛の強い人である。その後、森林組合の前田さんがスライドを使って、森の現状、森の役割、針葉樹と広葉樹、伐った材の行方などについて、また、木の伐採は危険をとまなう作業なので、安全には十分気を付けていることを話された。

いよいよ子ども達を楽しみにしていた「菌打ち体験」が始まった。モリメイトがやり方を説明した後、二人ずつ組になり、それぞれに大人が一人入った。低学年ということもありドリルの穴あけは大人がやり、子ども達は上下を確かめながら菌コマを詰め込み、音を楽しみながら木槌をたたいていた。名前や日付、絵などを丁寧に描いた名札を付けて完成。原木に持ち手を付けてもらって子どもたちは体育館の中を散歩。スキップする子もいた。後片付けも進んでやってくれた。この後、モリメイトは「原木はシイタケを育てた後土にかえること、クヌギを切った後にはひこばえが出て成長して再び利用できること」などの話をし、モリメイトの活動を書いたミニ本を手渡した。

神戸小学校での大切な思い出のひとつとして「シイタケの菌打ち体験」が子ども達の記憶の中に残ってくれると思う。

